



「失敗」と書いて「せいちょう」と読む

12月2日にあったオープンスクールから早くも2週間が過ぎようとしています。以前の団通信では、保護者による進路学習についてお伝えさせていただきましたが、今回は親子セミナーの様子や生徒の感想をお伝えします。

12月の親子セミナーの講師は、附属坂出中学校の教員をされ、今は高松商業高校で保健体育の教員と野球部の監督をされている長尾健司先生でした。以前、この学校で一緒に教員として働いていたときから、生徒たちに語る言葉の一つ一つに暖かさや厳しさ、熱い思いが込められており、長尾先生からは多くの事を学ばせてもらいました。1年生の中には、兄弟が授業や部活動でお世話になった生徒もいたようです。わずかな時間の講演でしたが、生徒たちは長尾先生の語る言葉を自分の過去の経験とつなげ、今の自分を振り返り、未来のなりたい自分の姿を思い描きながら聞いていました。一部ですが、生徒の感想を紹介します。



- 僕は、親子セミナーを通してたくさんのことを学びました。1つ目は『「失敗」と書いて「せいちょう」と読むです。僕は今まで失敗してしまうと、すぐに落ち込んで諦めていました。でも、失敗しても次に活かして自分自身が成長していくことが大切だとわかりました。2つ目は指示を待つのではなく、自分たちで考えることです。僕は、何かをするとき、人の指示を受けて行動することが多いです。でも、失敗をしてもいいから自分の判断で行動することが大切だとわかりました。これからは、長尾先生から教わったように失敗を恐れずに自分で考えて行動したいです。
- 「失敗と書いて成長と読む」という言葉がとても心に残りました。私も、テストで悪い点を取ってしまった時、点数や順位に縛られすぎずに、どこがいけなかったのか、どういう勉強法をしたらよかったのか考えて成長できるようにしたいと思います。また、指示を待つのではなく、自分たちであることを考えられるようにもなりたいです。「やりたいことをやるけれど、やりたくないこともやる」自分は、したいことを優先させていたなと思いました。やりたくないことをやってこそ物事がうまくいくと思うので、これからそういう気持ちで嫌なことにも取り組みたいと思います。
- 今日の言葉の中で「努力はうそをつかない」という言葉が心に残っています。努力していると自分では思っていたけども、報われなければそれは努力とは言わないという言葉は、自分にも当てはまるなあと思いました。部活でも自分で努力したと思っても、試合で自分の調子が良くなかったりするのは、もっと努力できるという事だと改めて気づきました。そして、自分で考えるというのはすごく大切なんだと感じました。考えて、自分で決めてやってみて、失敗したとしても、成長できる。失敗はだめな事じゃないという言葉がすごく響きました。
- 講演を聞いて、一番心に残ったのは「やらされる3時間より、やる30分」です。私は、自分から進んで勉強した方が頭に入ることを覚えています。自分の気持ちが動かないと物事は進まないなと思いました。もう一つ心に残っているのは「失敗と書いて成長と読む」です。失敗したら目標を立てて、それに向かって努力し、それでまた失敗してしまったらまた努力し、試しながら一番良い方法を探し続けることが大切なんだとわかりました。これからは失敗しても一喜一憂せずに、目標をもって生きていきたいです。

●私の兄は、長尾先生の教え子で「長尾先生に教えてもらったことは、どれも大切な事ばかりだった」と言っていました。今回のお話を聞いて思ったのは、長尾先生の「吸収する力」の高さです。例えば、別のスポーツのラグビーの試合を見て、野球に生かしたり、花巻東高校の監督さんに直接お話を伺ったりして、とても行動力のある人だと思いました。私も一度きりの人生だから、やりたいこともやりたくないこともいっぱい経験して、人としてもっともっと成長していきたいと思います。



香川県代表として、科学の甲子園ジュニアに行ってきました！

12月のオープンスクールの裏で、実は大きな催しがありました。それは、科学の甲子園ジュニア大会（12月1日～3日）です。科学技術振興機構（JST）が主催する大会で、今年が5回目になります。これまでも附属坂出中学校からは、多くの先輩たちが香川県予選を勝ち抜き、県代表として活躍してきました。今年も、茨城県つくば市（つくば国際会議場、つくばカピオ）を会場に、全国47都道府県から選ばれた中学生282名が参加しました。この大会に向けて、合計約28,000人もの中学生が都道府県大会にエントリーしたそうです。その厳しい予選を勝ち抜き、選ばれし282名のメンバーとして1、2年生から1名ずつが香川県代表（代表チームは6名）として参加しました。大会までも事前課題について、土日に集まってチームで意見や知恵を出し合うなど、大会に向けていろいろと準備をしていたようです。途中で学校の中間テストなどもあり、大変だったとは思いますが、競技や交流会などを通して、全国の科学者の卵と交流した経験は、大変貴重なものだと思います。最後に、大会に参加しての振り返りを紹介します。来年度、みなさんもぜひ挑戦してみてください。



「科学の甲子園ジュニアに参加して」

科学の甲子園では、筆記競技と実技競技（工作、実験）があります。僕は筆記競技と工作競技に参加しました。筆記競技では、理科と数学のどちらも必要とされる問題が出ました。習っていなくてもできるので、1年生の僕でも頑張って難問が解くことができました。もし、わからなかったとしても6人のチームなので、聞き合うこともできます。この競技をとおして、チームの団結力が高まりました。

工作競技では、筆記競技や実験競技と違って、あらかじめ問題が公開されていました。簡単にいうと、ピタゴラ装置のようなもので、決められた材料で球をいかに遅く転がせるかという問題です。本番では、事前に香川県で作るものを決めていたのに、焦りでうまく作れず、予定を変えて失敗の少ない簡単な装置に変更し、時間ぎりぎりできました。なんと、参加県の半分以上が失格の中、失格にもならず記録をなんとか残すことができました。でも、考えていたものができずに、悔しさが残りました。来年は、県代表の全員が附属坂出中学校になるぐらい、附属坂出中学校からたくさんの方が予選に参加し、今年以上にチームで団結してもう一度あの舞台に立ちたいです。